

第1期（2019年度～2023年度） コミュニティプラン

活気みなぎる人とまち
笑顔で夢ふくらむ山下校区



山下校区コミュニティ協議会

所在地：鹿児島市西千石町 15-5（山下校区公民館 1 階）
TEL/FAX：099-239-8618
E-MAIL：kr735745@bd6.so-net.ne.jp

目次

I	コミュニティプラン策定にあたって	P 1
II	ふるさと「山下」について	
1	校区の様子	P 2
2	校区の施設や史跡等	P 2
3	校区内の写真等	P 3
III	コミュニティ協議会の組織体系図	P 8
IV	コミュニティ協議会の運営方針	P 8
V	コミュニティプラン	
1	計画の期間	P 9
2	校区の歴史・概要	P 9
3	校区の特徴	P 10
4	校区の現状と課題	P 11
	各部会（1）～（5）	
5	活動の体系図（推進組織と活動内容）	P 12
6	事業計画内容	P 13
VI	資料	
1	コミュニティプラン策定委員会委員	P 18
2	策定までの経過概要	P 18
3	校区住民の意識調査結果	P 19
	小・中学生アンケート	
4	統計資料	P 27
5	防災マップづくりとその活用・今後の展開	P 28



I コミュニティプラン策定にあたって

山下校区コミュニティ協議会
会長 富山 開正

山下校区の皆様こんにちは。皆様におかれましては益々ご清栄のことと拝察いたします。

明治維新から150年を迎え、また山下小学校も創立140周年を迎え大変おめでたいことでございます。歴史と伝統の重みをひしひしと感じます。我が山下校区は明治維新の原動力となった多くの偉人を輩出した地域であります。この歴史と文化に育まれた素晴らしい校区がより安心して安全な住みやすいまちになりますよう、校区コミュニティ協議会が発足しました。

素晴らしいまちづくりを目指し、1・2年目は各町内会長さん、学校をはじめ、暗中模索しながら様々な企画に取り組んで参りました。常任委員会をはじめ運営委員会、コミュニティプラン策定委員会、各部会を作り事業を進めて参りました。その間、コミュニティプラン策定にあたり校区の皆様を対象にアンケート調査を実施しましたところ、多くの方々から沢山の回答をいただき誠にありがとうございました。アンケートを集約いたしまして、第1期(2019年度～2023年度)5ヶ年のコミュニティプランを作り上げました。これもひとえに皆様方のご指導ご協力の賜物と深く感謝いたします。

これらをもとに、住みよい素敵なまちづくりを進めていきましょう。これからも校区の皆様と一緒に校区の様々な課題に取り組んでいきたいと思っております。今後とも皆様のより一層のご理解ご協力をお願いいたします。

活みなぎる人とまち

笑顔で夢ふくらむ山下校区

II ふるさと「山下」について

1 校区の様子

県都鹿児島市の中央部に位置し、後背に城山、前方に桜島、鹿児島湾を臨む中心市街地である。照国町、平之町、東千石町、西千石町、加治屋町、山之口町及び千日町にわたり、南九州随一の商業地帯・繁華街となっている。

歴史的には、藩政時代以降、城下町鹿児島を中心であり、歴史に名を残す西郷隆盛をはじめ、明治維新前後に国事に奔走活躍した幾多の偉人傑士を輩出した土地として広く世に知られている。

太平洋戦争で、空襲のために街の大部分が焼けてしまったが、戦災復興事業により、鹿児島市の中心の街として復興した。現在、山下校区は企業・事業所・商店等のビルやマンションが立ち並び、都市型の商業地域、住居地域となっている。

2 校区の施設や史跡等

偉人

- ・西郷 隆盛
- ・吉井 友實
- ・伊地知正治
- ・大久保利道
- ・村田 新八
- ・篠原 国幹
- ・大山 巖
- ・黒木 為禎
- ・西郷 従道
- ・井上 良馨
- ・東郷平八郎
- ・山本権兵衛
- ・田代 安定
- ・牧野 伸顕
- ・山本 英輔
- ・牛島 満
- ・黒田 清輝
- ・木村 探元

就学前教育・社会教育施設

- ・集成幼稚園・敬愛幼稚園
- ・三育幼稚園

学校文教施設

- ・山下小学校・三育小学校
- ・甲東中学校・中央高等学校

公共機関等

- ・維新ふるさと館
- ・御着屋交番
- ・地藏角交番
- ・山下消防分団
- ・中央消防分団
- ・山之口郵便局
- ・東千石郵便局
- ・加治屋町郵便局

体育・文化施設

- ・山下小学校 体育館 運動場
- ・山下校区公民館
- ・甲東中学校 体育館 運動場
- ・中央高等学校 体育館 運動場

史跡等

- ・照国神社
- ・大中寺
- ・薩摩義士の墓
- ・ザビエル教会
- ・示現流兵法資料館
- ・平田鞆負像
- ・維新ふるさとの道
- ・ザビエル滞甕記念碑
- ・大久保利道銅像

公園・広場

- ・ザビエル公園
- ・平田公園
- ・清滝公園
- ・天文館公園
- ・甲突川左岸緑地公園
- ・市民広場(ライオンズ広場)
- ・城山公園広場

交通・道路

- ・国道3号、10号、225号
- ・県道20号、21号、24号
- ・鹿児島市電

3 校区内の写真等



大久保利通生い立ちの地



西郷隆盛誕生地



島津斉彬公像



島津忠義公像



平田靱負像



大中寺（西千石町）



島津久光公像



会文舎



東郷平八郎誕生地



大山巖誕生地



太平洋戦争戦士の墓の石碑



敬愛幼稚園



村田新八誕生地



田代安定誕生地



集成学舎・集成幼稚園



サニーサイド保育園



向田邦子居住跡地（平之町）



ザビエル滞躰記念碑



三育小学校・幼稚園



山下小学校



甲東中学校



鹿兒島中央高等学校



照国神社



照国町・中之平通り



山下校区公民館



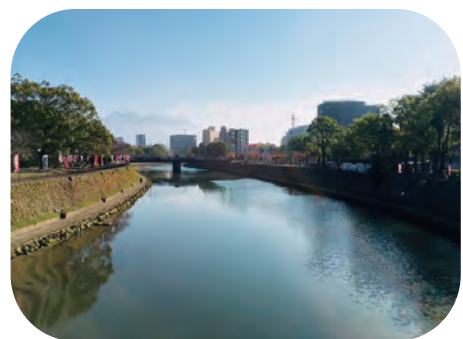
山下児童クラブ



西千石町・柿本寺通り



文化通り



甲突川・左岸緑地公園



清滝公園



天文館・在りし日のタカブラビル



平之町・国道3号線平田橋前



天文館公園



市民広場



天文館・ぴらもーる



高見馬場オフィス街



平田公園



ザビエル公園



加治屋町電停前



中央公園



鹿児島中央警察署 御着屋交番



鹿児島中央警察署 地蔵角交番



維新ふるさと館



市電



国際交流施設建設予定地



市立病院跡地



偉人祭



祇園祭「おぎおんさあ」

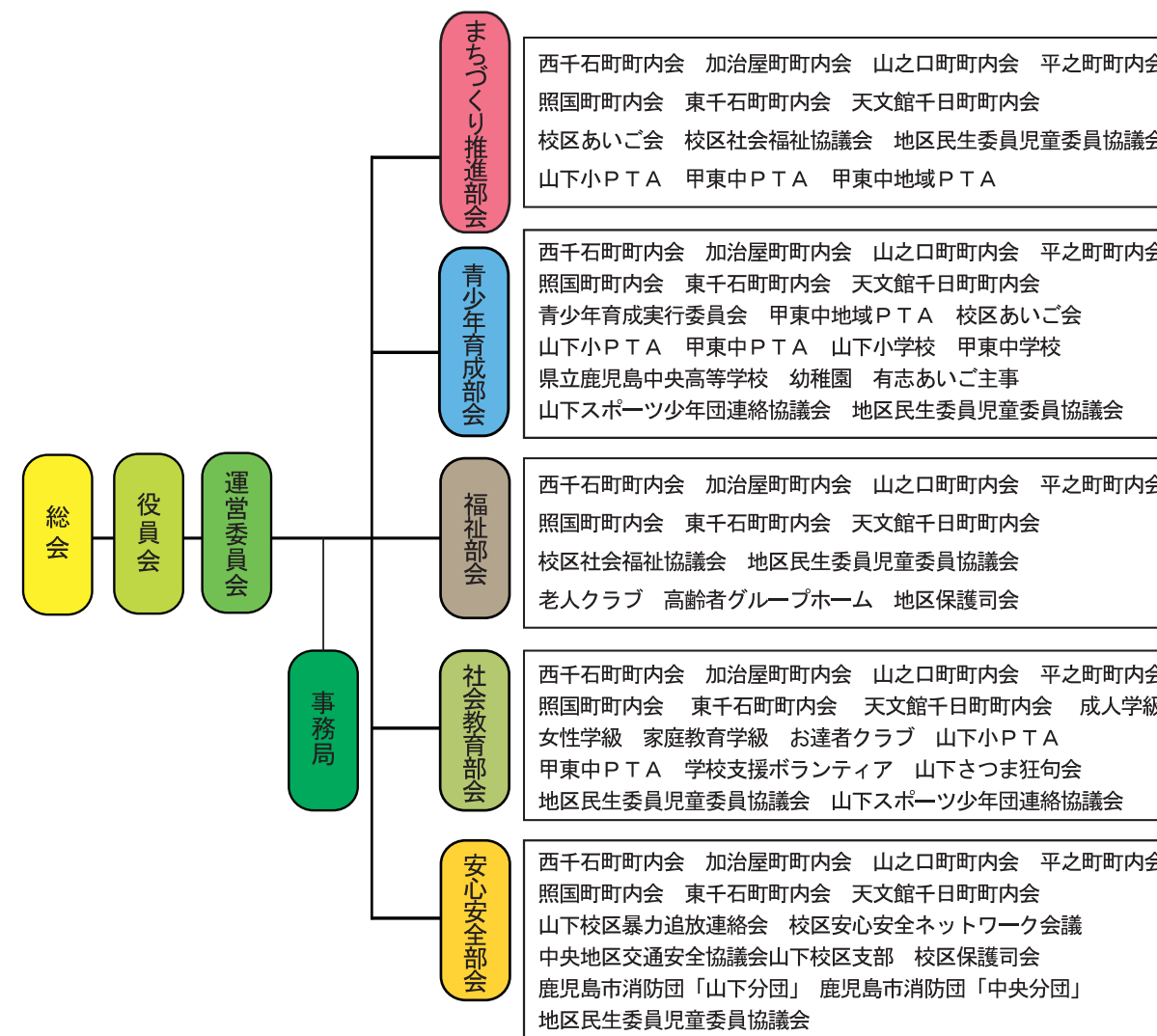


薩摩義士頌徳慰霊祭



おはら祭り

Ⅲ コミュニティ協議会の組織体系図



Ⅳ コミュニティ協議会の運営方針

- (1) 「山下校区は一つなり」を合い言葉に、住民みんなでまちづくりに取り組む機運を高め、親和と協力のもと地域主体のまちづくりを進める。
- (2) 子どもたちをはじめ、次世代を担う青年層との意見交換を行うなど、広く住民の声に耳を傾け、その声を活動や運営に生かすとともに、協議会活動についての広報紙を発行するなど情報発信に努める。
- (3) 校区公民館を住民がふれあい交流する場、地域を担う人づくりの場として積極的に活用し、新たな参加者の掘り起こしなどを通して、住民同士の絆がさらに深まるように努める。
- (4) 校区のまちづくりの指針となる地域コミュニティプランを住民の声を反映して作成し、地域課題の解決や地域資源の活用に取り組む。
- (5) 鹿児島市をはじめ、関係行政機関等との連携を図ってまちづくりを進めるとともに、地域課題やその解決についての情報共有を図る。

V コミュニティプラン

1 計画の期間

2019年4月～2024年3月（5年間）

2 校区の歴史・概要

弥生時代の頃、山下校区はほとんど海だった。その後甲突川が運んできた土砂が堆積したり、土地が隆起したりして陸地が出来上がった。そのころの甲突川は、今の平田橋付近から山下小学校のあたりを流れていた。島津家18代当主（初代薩摩藩主）家久のとき城下町を南の方に広げるため、それまで平之町から城山の南側を流れ、南林寺付近で海に注いでいた甲突川の流れをさらに南の天保山の方に変えた。江戸時代を通し、校区のほとんどは武家屋敷という状況だった。

東千石町・西千石町

1601年（慶長6年）、鶴丸城が築かれて城下町が整備された。城に近い場所に禄高千石以上の武士を住ませた通りがあり、そこを千石馬場と呼んでいた。

1889年（明治22年）鹿児島市が発足した時、この千石馬場通りを東千石馬場町、西千石馬場町と名づけられ、更に1899年（明治32年）に東千石町、西千石町と改められた。

平之町

鹿児島では、山のすそ野のゆるい傾斜地のことを「平（ひら）」と言う。平之町は、城山のすそ野に開けた町という意味で、1889年（明治22年）に平之馬場町と名づけられたが、1899年（明治32年）に、平之町と改められた。

山之口町

江戸時代、松原山南林寺の裏に千丘山と呼ばれる小高い丘があり、その登り口が今の地藏角交番のあたりだったそうである。山への入口ということから山之口町という名前が生まれたようだが、ここも初めは山之口馬場町と呼ばれていた。

加治屋町

昔、甲突川は今の平田橋付近から清滝公園を通り、鹿児島中央高校の東側を流れていたが、1601年（慶長6年）、18代当主島津家久が鶴丸城を築く時に甲突川の流れを変えてから城下町の一部として整備された。それまで島津義弘（家久の父）の隠居地であった加治木から鹿児島城下に移住させた家来をそこに住ませたことから、加治屋の地名がついたという説がある。

千日町

1963年（昭和38年）に南林寺町・船津町・山之口町の一部を合わせてつくられた町で千日市場から名付けられた。

照国町

1965年（昭和40年）に平之町・山下町の一部を合わせてつくられた町で、照国神社から名付けられた。

3 校区の特徴

校区の自慢は？



人
学校を中心にあいさつ運動が展開され
住民同士の交流もみられる。

公共施設
維新ふるさと館をはじめとして歴史に
関わる施設等が多い。
国際交流センター（仮称）が整備され
る予定。

青少年育成
あいご会活動が盛んである。

交通

バス、電車等を利用した交通
機関のアクセスがいい。

歴史・文化・伝統

藩政以来の歴史と伝統がある。
保存会による破魔投げが行われている。

校区の景色

城山や甲突川などの自然に囲まれ、
天文館を中心とした市内有数の商
業地がある。



校区の問題点

暮らし

子どもたちの屋外での遊び場が少
ない。

まちづくり

マンション等の集合住宅を含めた
町内会活動の活性化が課題である。

環境問題

ゴミ出しのマナーが守られていない。

安心・安全・防犯・防災

治安はよいと感じているが、防犯対
策への不安がある。
（詐欺電話、声かけ事業など）



4 校区の現状と課題 ~ ○現状 ☆課題 ~

(1) まちづくり推進部会

- 歴史・史跡・伝統文化が大切にされている。
- 買い物などの利便性がよく、住みやすい。
- ☆ 自然や歴史、伝統文化等の資源を生かした活動を展開する。
- ☆ コミュニティ活動の広報活動を一層充実させる。

(2) 青少年育成部会

- あいご会などの育成団体の支援・育成を継続している。
- ☆ 校区スポーツフェスタへの参加者がやや少ない。
- ☆ 関係育成団体等との連携を一層強化していく。(あいご会、スポーツ少年団等)
- ☆ 地域全体で異世代間の交流を活性化させ、関係づくりを図る。

(3) 福祉部会

- ☆ 住民同士や世代間の交流を望む反面、なかなかその機会がない。
- ☆ 高齢者は地域での見守り活動や生きがいに期待を寄せている。
- ☆ 高齢者が気軽に集い、語り合いながら活動する場や機会が少ない。
- ☆ 子育て世代に対する支援が求められている。
- ☆ 障害者に対する校区内の支援協力の充実を図る。
- ☆ 町内会や福祉協議会等と連携して、子育てサロンやお達者クラブ等の活性化を図る。
- ☆ 健康教室や子育て支援の活動を充実させる。

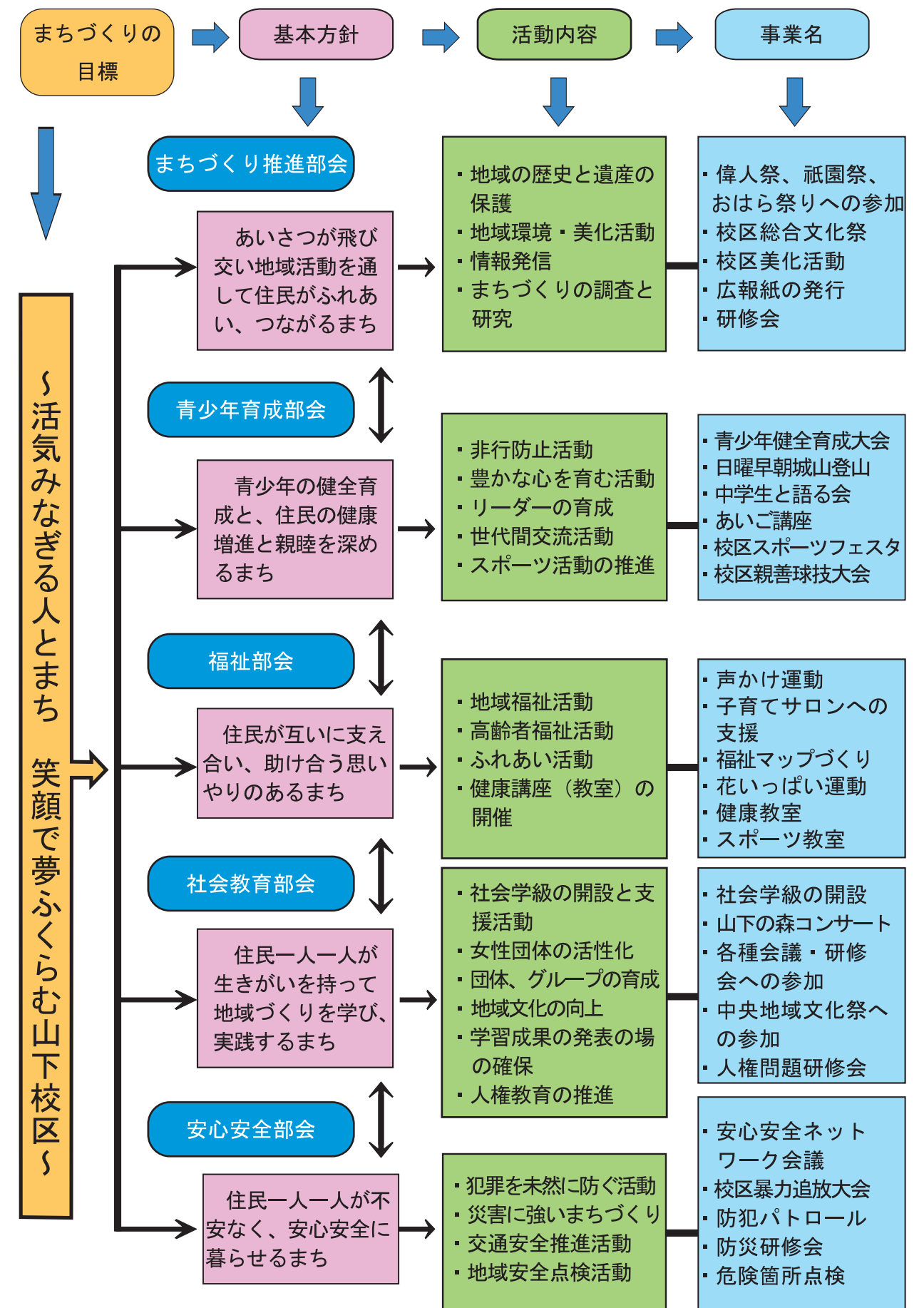
(4) 社会教育部会

- ☆ 社会学級（成人学級、女性学級、家庭教育学級）への参加が少ない。
- ☆ 生涯学習への理解を深める必要がある。
- ☆ 各種講座・教室等の情報を住民に広報するなど、情報発信をさらに強化する。
- ☆ 地元大学生との交流を行う。

(5) 安心安全部会

- 自然災害に対する不安や防災対策への関心が高い。
- ☆ すべての暴力追放を推進する。
- ☆ 防災訓練への参加者が少なく、参加者も限定されている。
- ☆ 危険箇所点検等を行い、その結果をもとに校区の防災システムの一層の充実を図る。
- ☆ 安全パトロールの充実を図る。

5 活動の体系図（推進組織と活動内容）



6 事業計画内容

山下校区コミュニティプラン（まちづくり推進部会）

番号	基本方針	活動内容	事業名	実施部会等	事業内容	事業効果	実施時期	計画スケジュール				事業種別	備考	
								'19	'20	'21	'22			'23
1	あいさつが飛び交い地域活動を通して住民がふれあい、つながるまち	地域の歴史と遺産の保護	薩摩義士頌徳慰霊祭への参加・協力の参加	まちづくり推進部会	平之町町内会が主となって行っている頌徳慰霊祭に、協議会として参加・協力する。	木曾川などの治水工事に尽くした薩摩義士のことを学び、「ふるさと山下」への理解と郷土愛を育むことができる。	5月	○	○	○	○	○	継続	平之町町内会との連携
2			偉人祭への参加・協力の参加	まちづくり推進部会	加治屋町町内会が主となって行っている偉人祭に、協議会として参加・協力する。	山下校区や加治屋町出身の偉人のことを学び、「ふるさと山下」への理解と郷土愛を育むことができる。	8月	○	○	○	○	○	継続	加治屋町町内会との連携
3			祇園祭（おざおんさあ）への参加	まちづくり推進部会	祇園祭に「子ども神輿」が参加できるよう、あいご会に協力する。	祇園祭に参加することで地域の活性化が図られるとともに、子どもたちにも愛郷心を育むことができる。	7月	○	○	○	○	○	継続	あいご会との連携
4			おはら祭への参加	まちづくり推進部会	小・中学生や保護者等で「連」を作って、おはら祭に参加する。	大人と子どもが一緒に練習して祭りに参加し、郷土の文化を継承するとともに、校区民の親睦が図られる。	11月	○	○	○	○	○	継続	
5			校区総合文化祭	まちづくり推進部会	社会学級や自主学習グループ、学校等の学習活動の成果を発表する。	学習成果を発表したり、参観したりすることで、校区の文化の向上と豊かな心が育つふさふさづくりに寄与できる。	2月	○	○	○	○	○	継続	
6		地域環境・美化活動	校区美化活動	まちづくり推進部会	「クリーンシティかごしま」の日に合わせて、校区内の環境美化活動を行う。	美化活動を通して町内会活動の活性化が図られるとともに、美しい環境づくりが推進される。	8月第1日曜	○	○	○	○	○	継続	各町内会との連携
7		情報発信	広報紙の発行	まちづくり推進部会	コミュニティ協議会の活動結果や計画及び運営等について校区住民へ発信する。	校区住民の協議会の運営や活動等についての理解が深まり、積極的な参加が増える。	年4回	○	○	○	○	○	新規	
8		まちづくりの調査と研究	まちづくりの研修会	まちづくり推進部会	まち歩きをして史跡を訪ねたり、郷土の先人についての話を聞いたりして、地域についての理解を深める。	校区内の貴重な歴史遺産や先人についての理解を深め、「ふるさと山下」のよさを再発見するとともに、郷土への愛着を深める。	11月	○	○	○	○	○	継続	

山下校区コミュニティプラン（青少年育成部会）

番号	基本方針	活動内容	事業名	実施部会等	事業内容	事業効果	実施時期	計画スケジュール				事業種別	備考	
								'19	'20	'21	'22			'23
9	青少年の健全育成と、住民の健康増進と親睦を深めるまち	非行防止活動	青少年健全育成大会	青少年育成部会	青少年の健全育成のあり方や課題、取組の大切さを学び合う。	校区住民が心豊かになくましい青少年の育成への取組を学び合う意識の高揚につながる。	1月	○	○	○	○	○	継続	
10		豊かな心を育む活動	日曜早朝城山登山	青少年育成部会	城山の山頂広場まで登り、自主清掃やラジオ体操をしたり、校歌や季節の歌を歌ったりする。	季節の変化を感じながら、心と体の健康づくりに役立てる。	毎月	○	○	○	○	○	継続	あいご会との連携
11		リーダーの育成・世代間交流活動	中学生と語る会	青少年育成部会	6年生が山下小学校を卒業した先輩から中学校生活の様子を聞く会を設定する。	卒業を控えた6年生が、中学校生活への期待や希望を広げるとともに、卒業した中学生が今後とも先輩として充実した中学校生活を送ろうとする意欲を高める機会とする。	12月	○	○	○	○	○	継続	あいご会との連携
12			あいご講座	青少年育成部会（あいご会）	あいご会の運営のあり方について関係者の理解を深める。	あいご会活動の充実を図るとともに、地域の青少年健全育成活動に役立てる。	5月	○	○	○	○	○	継続	あいご会との連携
13		スポーツ活動の推進	校区スポーツフェスタ	青少年育成部会	校区住民の親睦やふれあいを目的に、気軽に参加できるスポーツフェスタを開催する。	校区住民のふれ合いと交流が図られ、絆が強くなるとともに、活気あふれる地域づくりが進められる。	10月	○	○	○	○	○	継続	
14			校区親善球技大会	青少年育成部会	地域の子どもたちが集まってスポーツを楽しむ。	子どもたちどうしでの親睦を深めるとともに、体力づくりを図る。また、青少年健全育成につながる。	7月	○	○	○	○	○	継続	あいご会との連携

山下校区コミュニティプラン (福祉部会)

番号	基本方針	活動内容	事業名	実施部会等	事業内容	事業効果	実施時期	計画スケジュール				事業種別	備考	
								'19	'20	'21	'22			'23
15	住民が互いに支え合い、助け合う思いやりのあるまち	地域福祉活動・高齢者福祉活動	見守り、声かけ運動への支援	福祉部会	校区内の高齢者へ親しく声かけしたり、一人暮らしの高齢者へは隣近所や民生委員、町内会役員等で組織する見守り隊が訪問活動を展開したりする。	声かけや訪問活動を行うことにより、高齢者の安否確認や困りごとへの対応ができる。高齢者が少しでも快適に生活できるように支援できる。	毎月	○	○	○	○	○	継続	民児協や町内会との連携
16			子育てサロンへの支援	福祉部会 (民児協)	育児の悩みを相談したり、情報交換を行ったりするなかで、親どうしが知り合う機会をつくる。	子育てを地域ぐるみで支えあうことが出来る。	随時	○	○	○	○	○	継続	民児協との連携
17			福祉マップづくり	福祉部会	まち歩き等を通して、校区内の福祉関係の施設や、福祉活動を行っているグループなどの情報を、地域住民に知らせる。	福祉に関する情報を地域住民に知らせることにより、地域住民の福祉への関心を高めるとともに、施設等を利用しやすくなる。	5月	△準備	○作成	△	○見直し	△	新規	民児協との連携
18		ふれあい活動	花いっぱい運動	福祉部会 (あいご会)	あいご会を中心にして、花園の花植えや世話をを行う。	花の世話をすることによって子どもたちどうしのふれあいに役立ちとともに、地域の美化にもつながる。	随時	○	○	○	○	○	継続	あいご会との連携
19		健康講座 (教室) の開催	健康教室	福祉部会	校区住民が気軽に参加して体を動かしたり簡単なゲームをしたりして、気分転換を図れる「健康教室」を開催する。	健康体操などの実践化・日常化が図られ、心身の健康維持に寄与できる。	随時	○	○	○	○	○	新規	
20			スポーツ教室	福祉部会 (スポーツ推進委員)	スポーツ推進委員による成人・高齢者を対象とした、楽しみながら学べる体操教室の開催及びニュースポーツ教室を開催する。	参加者の健康・体力づくりへの意欲の向上や日常の実践化への効果が期待できる。	随時	○	○	○	○	○	新規	スポーツ推進委員との連携

山下校区コミュニティプラン (社会教育部会)

番号	基本方針	活動内容	事業名	実施部会等	事業内容	事業効果	実施時期	計画スケジュール				事業種別	備考		
								'19	'20	'21	'22			'23	
21	住民一人一人が生きがいを持ち、地域づくりを学び、実践するまち	社会学級の開設と支援活動	成人学級の開設	社会教育部会	社会生活に必要な教養や資質の向上を図れるような講座を開設する。	社会生活上の課題について学習することで、知識・技能を習得するとともに、その成果がまちづくりに生かされることが期待できる。	通年	○	○	○	○	○	○	継続	
22		女性団体の活性化	女性学級の開設	社会教育部会	社会生活に必要な教養や資質の向上を図れるような講座を開設する。	社会生活上の課題について学習することで、知識・技能を習得するとともに、成果がまちづくりに生かされることが期待できる。	通年	○	○	○	○	○	○	継続	
23		団体・グループの育成	家庭教育学級への支援	社会教育部会	小中学校の家庭教育学級を支援し、家庭の教育力向上を図る。	家庭教育の充実が図られることで、地域の子育ての充実や活力につながる。	通年	○	○	○	○	○	○	継続	小中学校PTAとの連携
24		地域文化の向上	山下の森コンサート	社会教育部会	子どもたちをはじめとする校区住民が素晴らしい音楽に触れ、楽しいひと時を過ごす。	校区住民が豊かな心を育むとともに、地域の活性化を図る。	6月	○	○	○	○	○	○	継続	
25			各種会議・研修会への参加	社会教育部会	中央公民館等の各種会議や研修会に参加する。	各種情報を得ることで家庭生活の向上や地域の活性化につながる。	常時	○	○	○	○	○	○	継続	
26		学習成果の発表の場の確保	中央地域文化祭への参加	社会教育部会	中央地域文化祭に、協議会の構成団体や学級生が出演もしくは出演する。	構成団体や学級生の日頃の学習の成果を発表するとともに、意欲の向上を図る。	1月	○	○	○	○	○	○	継続	
27		人権教育の推進	人権問題研修会	社会教育部会	偏見や差別をなくし、明るく思いやりのあるまちづくりを進めるために、人権問題に関する学習の機会を設ける。	校区住民の人権意識が高まり、差別のない地域社会づくりに貢献する。	12月	○	○	○	○	○	○	継続	

山下校区コミュニティプラン (安心安全部会)

番号	基本方針	活動内容	事業名	実施部会等	事業内容	事業効果	実施時期	計画スケジュール					事業種別	備考
								'19	'20	'21	'22	'23		
28	住民一人一人が不安なく、安心安全に暮らせるまち	犯罪を未然に防ぐ活動	安心安全ネットワーク会議	安心安全部会	校区住民の安心安全な生活を維持していくために、関係団体が集まって現状と課題について話し合うとともに、改善を図る。	校区住民の安心安全な生活を維持するとともに、安心安全に対する意識が高まる。	年4回	○	○	○	○	○	継続	
29			校区暴力追放大会	安心安全部会	校区住民の参加のもと、暴力追放大会を開催し、防犯意識の向上を図る。	様々な暴力をさせない、しない運動の充実が図られ、思いやりのあるまちづくりにつながる。	11月	○	○	○	○	○	継続	
30			防犯パトロール	安心安全部会	青パトをはじめとした、地域防犯活動の機能化を促進する。	地域の防犯体制が充実し、活動の実践化が図られるとともに、安心安全なまちづくりにつながる。	随時	○	○	○	○	○	継続	青パトの活用
31		災害に強いまちづくり	防災研修会	安心安全部会	関係団体との連携により防災研修会を開催し、自然災害に対する住民の心得を学び合う。	校区住民の危機意識・防災意識の向上が図られ、非常の際の減災につながる。	7月	○	○	○	○	○	新規	
32		交通安全推進活動	交通安全教室	安心安全部会	交通安全協会山下校区支部の総会を協議会として積極的に支援し、校区内の交通安全のあり方について話し合う。	校区住民が交通安全についての理解を深め、交通ルールを守って安心安全な暮らしをしようという意識を高める。	5月	○	○	○	○	○	継続	交通安全協会 山下支部との連携
33		地域安全点検活動	危険箇所点検	安心安全部会	地域の危険箇所を把握し、危険箇所の改善や地域住民への情報提供を行う。	校区住民の安心安全への意識が高まり、安心安全なまちづくりに寄与できる。	7月	○	○	○	○	○	継続	県・市・警察との連携

VI 資料

1 コミュニティプラン策定委員会委員

	氏名	役職
1	富山 開正	コミュニティ協議会会長
2	木村 和男	〃 副会長 (社会教育部会長)
3	前田 正幸	〃 副会長 (福祉部会長)
4	吉永 次男	まちづくり推進部会長
5	西村 光行	青少年育成部会長
6	香西 一雄	福祉部会副部会長
7	宮内 政一	社会教育部会副部会長
8	妹尾 博隆	安心安全部会長
9	佐藤 秀正	山下小学校長
10	立石 芳文	甲東中学校長
11	緒方 善子	書記
12	上村 玲子	会計

2 策定までの経過概要

期日	会議名	内容等
29. 4.20	第1回常任委員会	コミュニティプラン策定スケジュール
29. 6.20	第2回常任委員会	アンケート内容
29. 9.19	第3回常任委員会	アンケートの配付・回収・集計
29.11.21	第4回常任委員会	アンケートの集計・分析
30. 1.16	第5回常任委員会	アンケート結果についての考察
30. 3.20	第6回常任委員会	アンケート結果についてのまとめ
30. 6.19	第1回常任委員会	プランの概要について
30. 8.21	第2回常任委員会	各部会ごとの話し合い 現状と課題
30.10.16	第3回常任委員会	プラン冊子の概要について検討
30.12.18	第4回常任委員会	冊子の内容について検討
31. 2.19	第5回常任委員会	概要版の検討
31. 3.19	第6回常任委員会	平成30年度のまとめ

二十九年

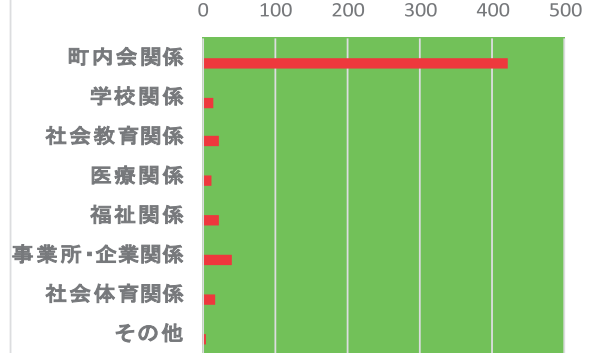
三十年

3 校区住民の意識調査結果

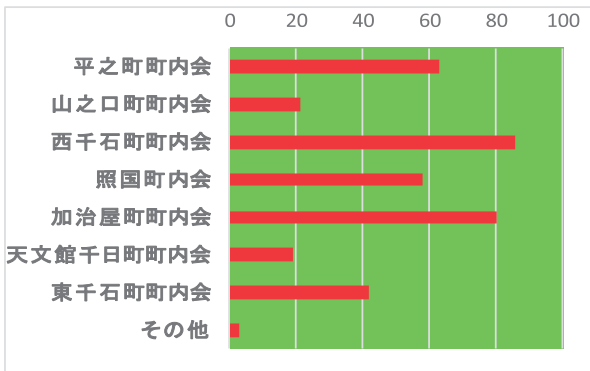
(単位：人)

山下校区アンケート結果
【あなた自身について】

問1 構成団体



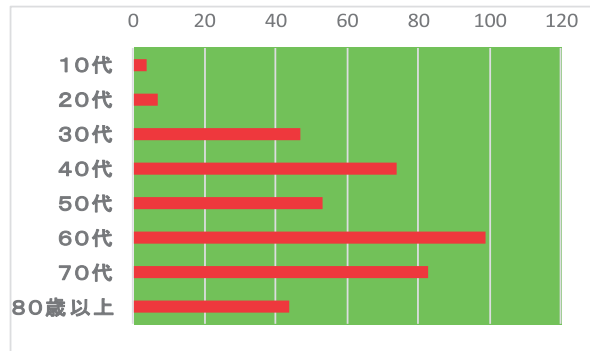
問2 町内会



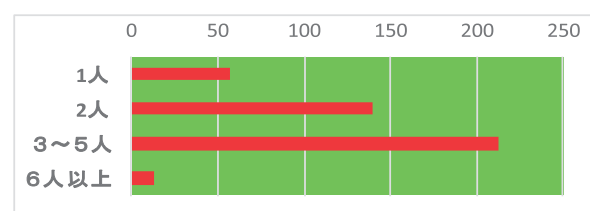
問3 性別



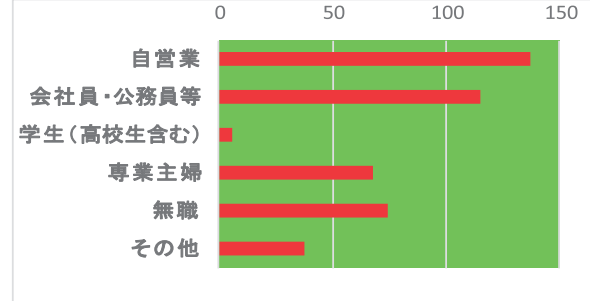
問4 年齢



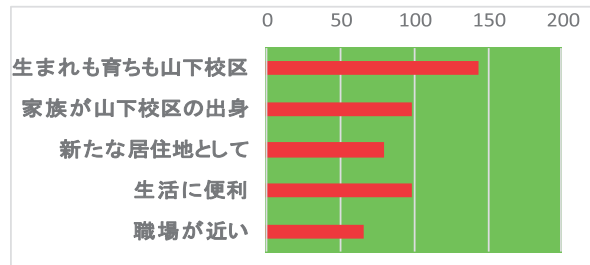
問5 家族の人数



問6 現在の職業

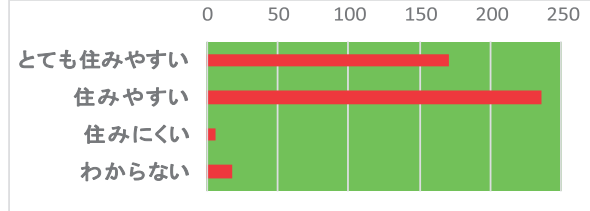


問7 山下校区に住んでいる理由

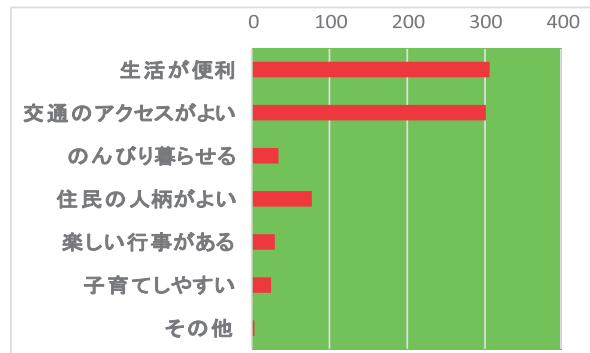


【生活環境について】

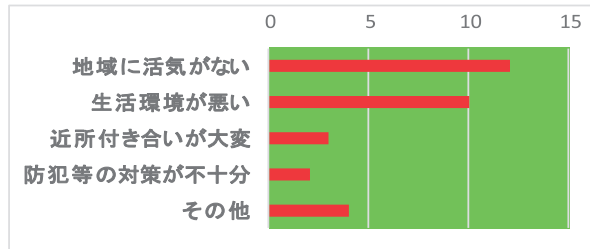
問8 山下校区はどんな地域か



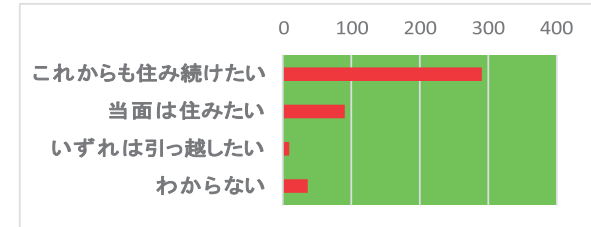
問9 住みやすいと答えた理由



問10 住みにくいと答えた理由



問11 これからも山下校区に住みたいか

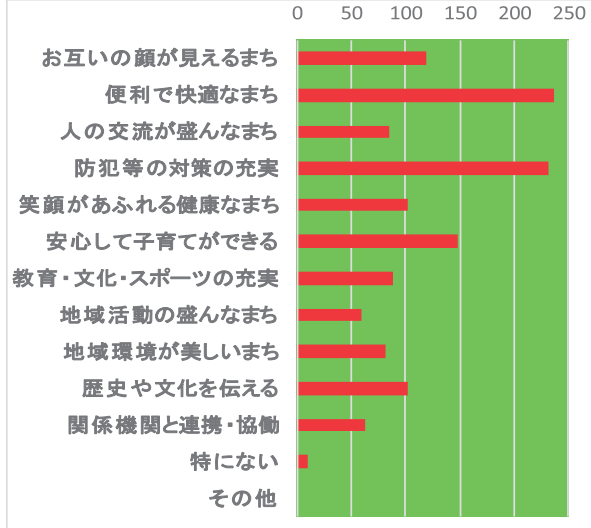


問12 子や孫にも山下校区に住んでほしいか

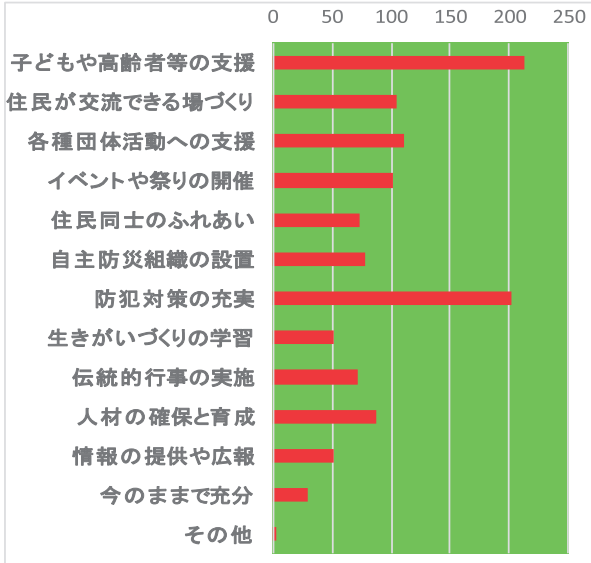


【将来の山下校区について】

問13 将来どんなまちにしたいか

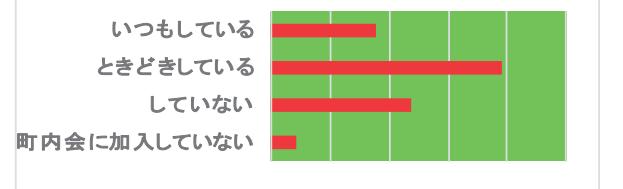


問14 今後どんな活動が必要か

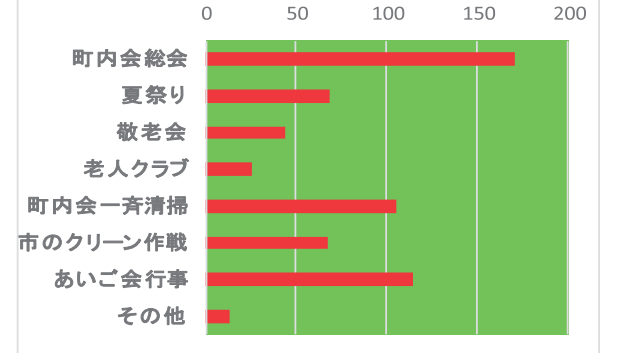


【町内会の活性化について】

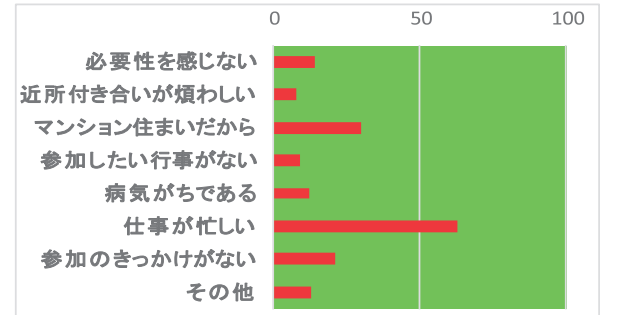
問15 町内会活動への参加



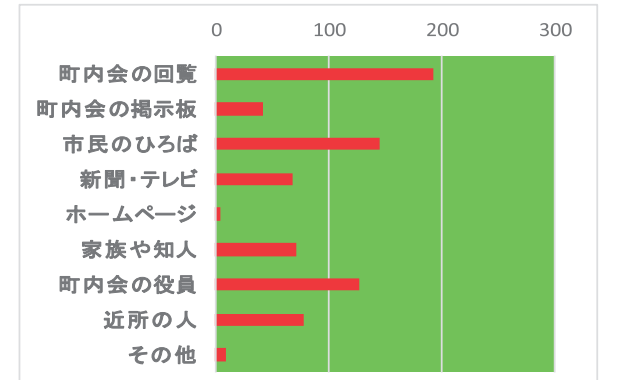
問16 参加したことのある町内会行事



問17 町内会行事に参加しない理由

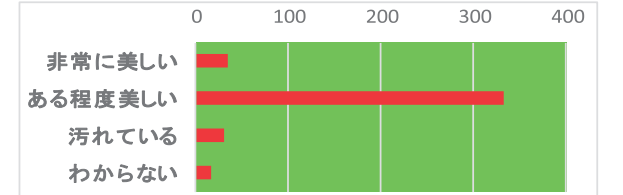


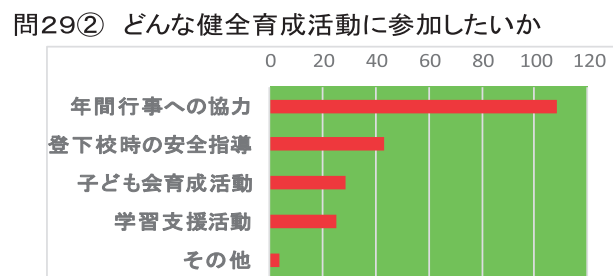
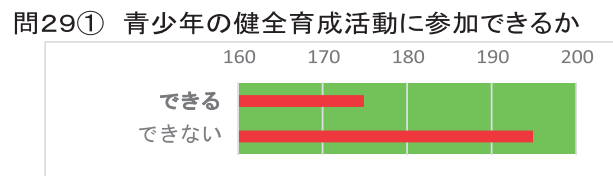
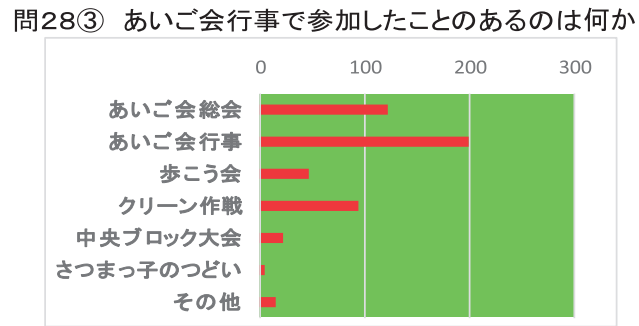
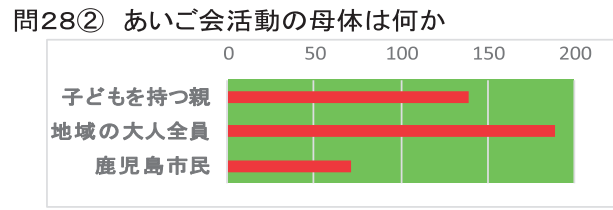
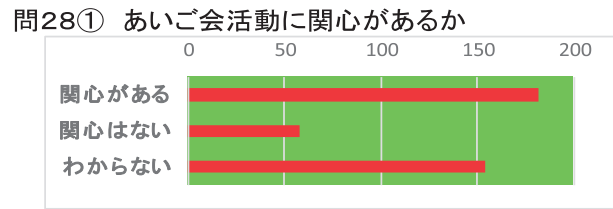
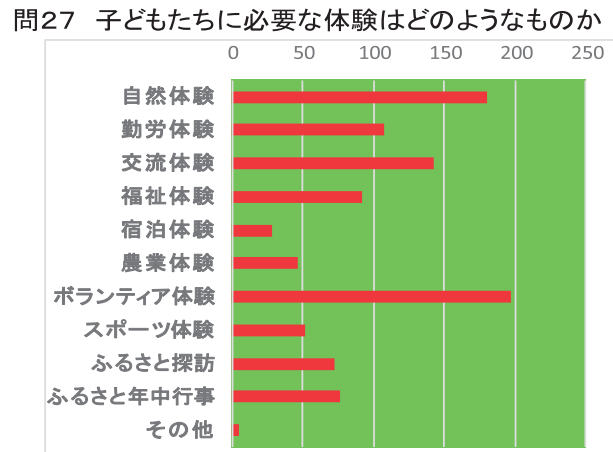
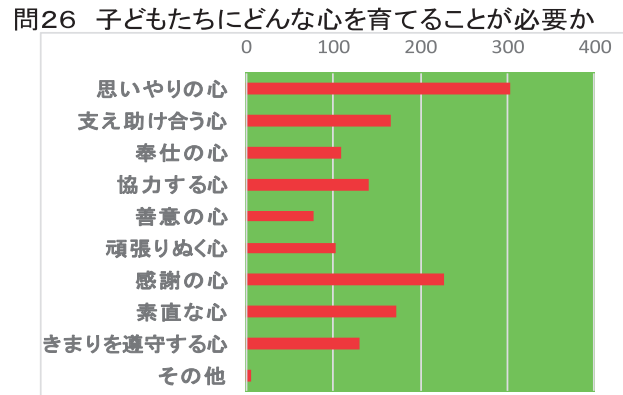
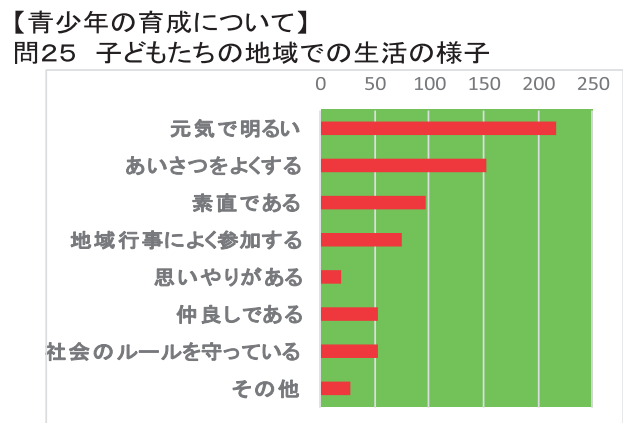
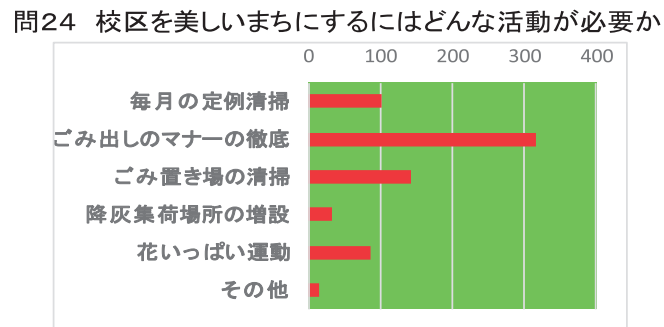
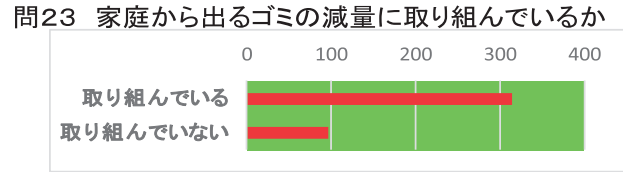
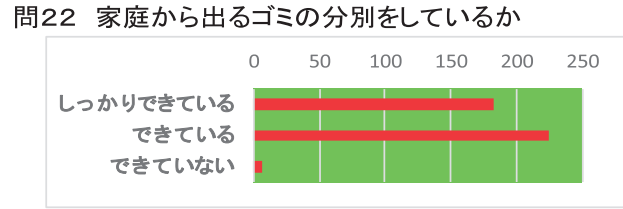
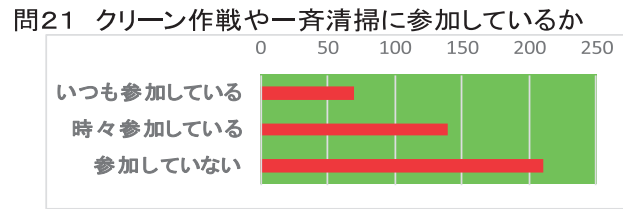
問19 地域の情報をどのように入手しているか



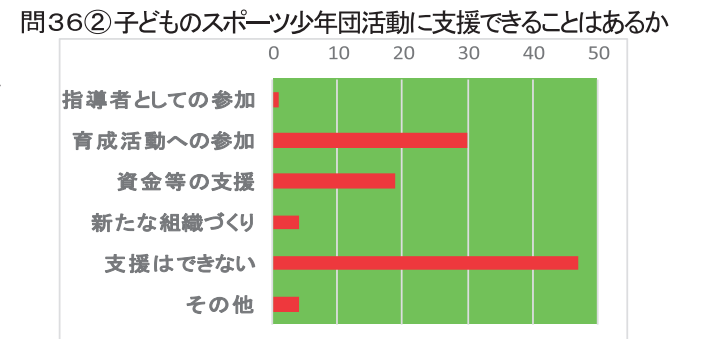
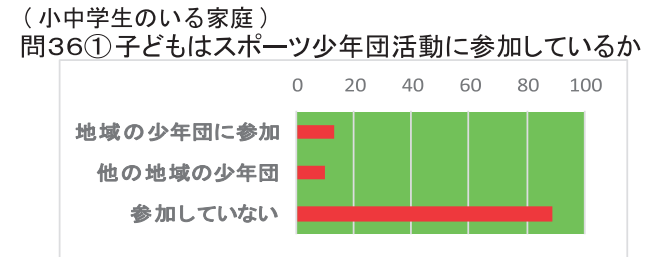
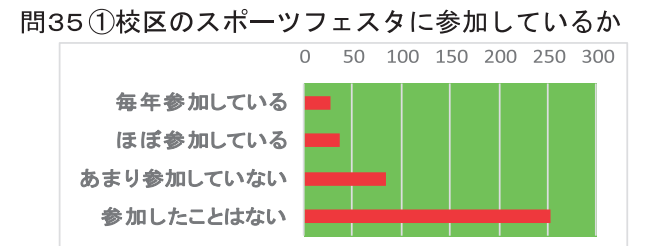
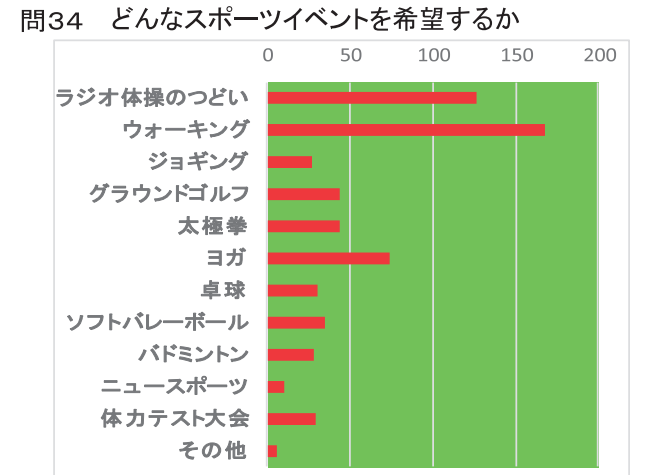
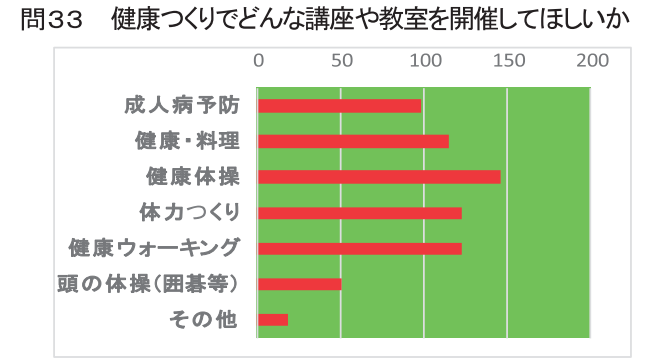
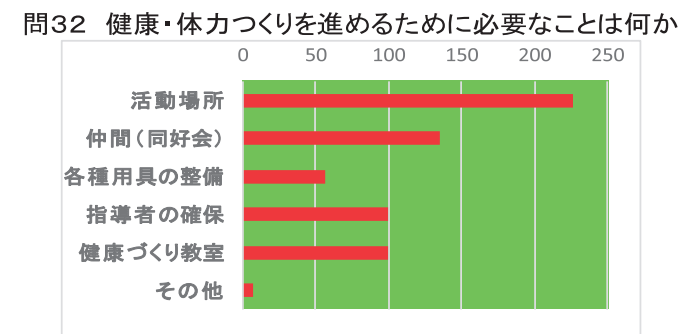
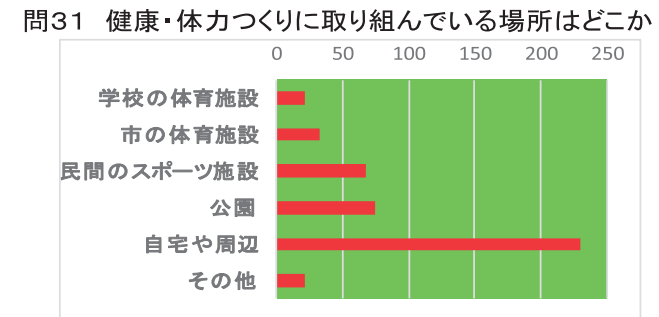
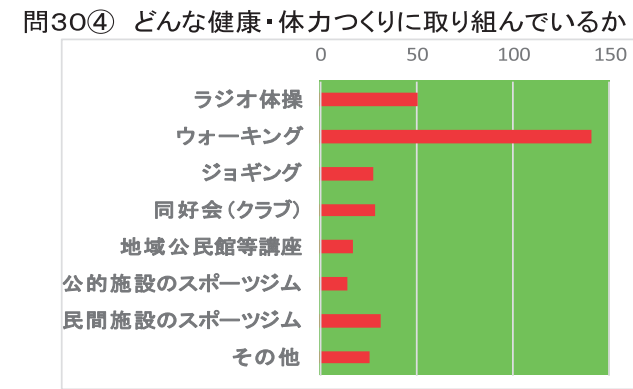
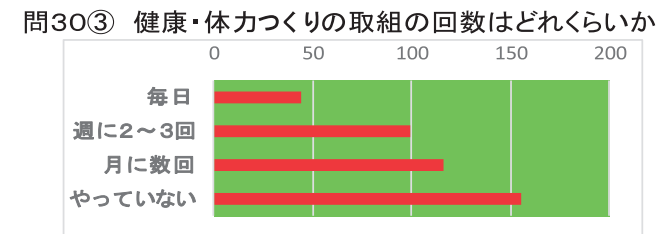
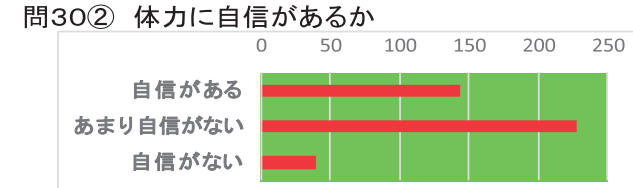
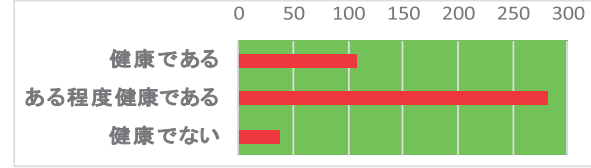
【環境美化について】

問20 校区の環境についてどう思うか

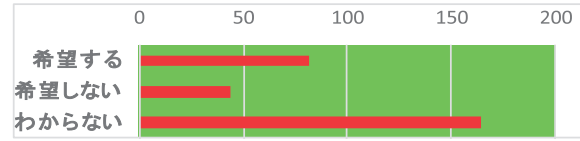




【健康・体力づくりについて】
問30① 自分は健康だと思うか

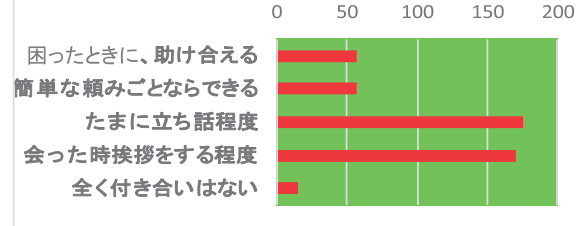


問37 「山下スポーツ活動の日」を設けることについて

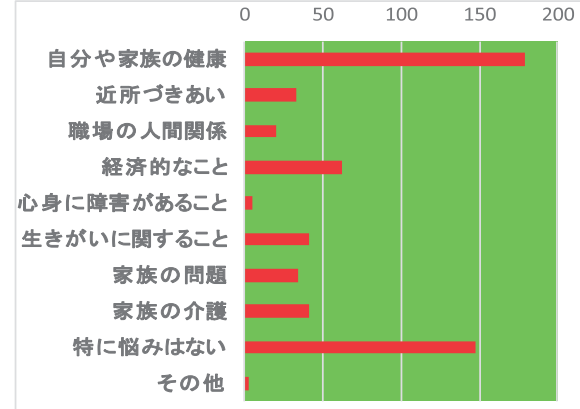


【地域福祉について】

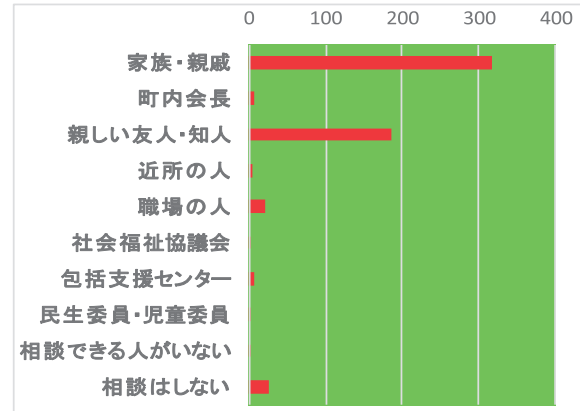
問39 近所の人とどの程度お付き合いをしているか



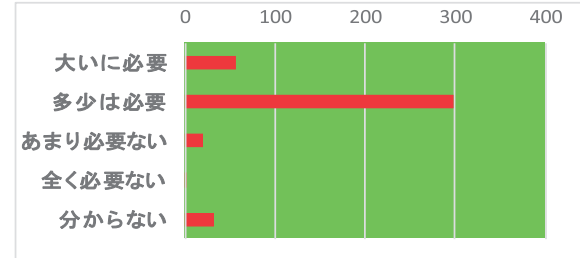
問40 どんな悩みや不安を感じているか



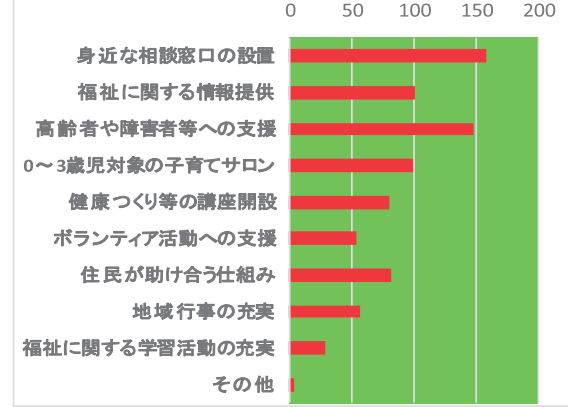
問41 悩みや不安はだれに相談するか



問42 住民の絆や結いの心についてどう思うか

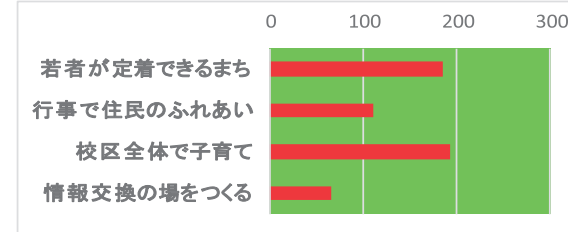


問43 地域福祉の充実に必要なことはどんなことか

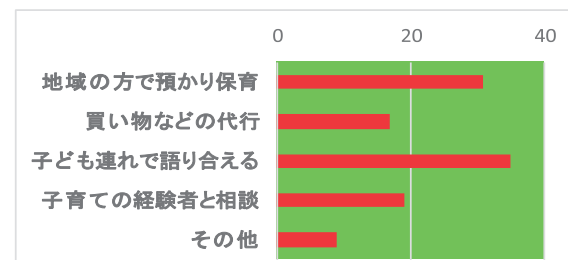


【児童福祉（子育て）について】

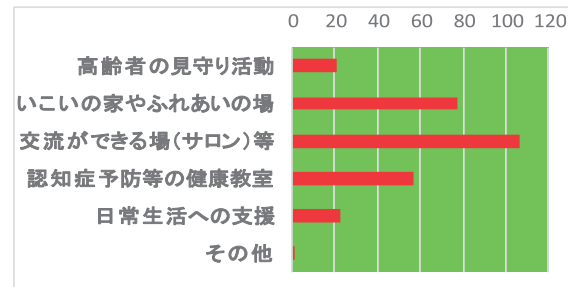
問44 少子化について校区でできることは何か



問45 地域にあったらいいと思うサービスは何か（就学前の子どものいる家庭）

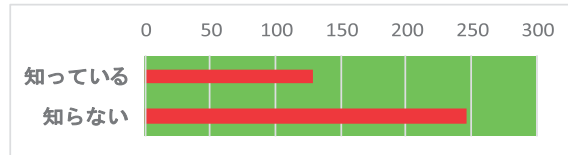


問47 地域にあったらいいと思うサービスは何か（65歳以上の方）

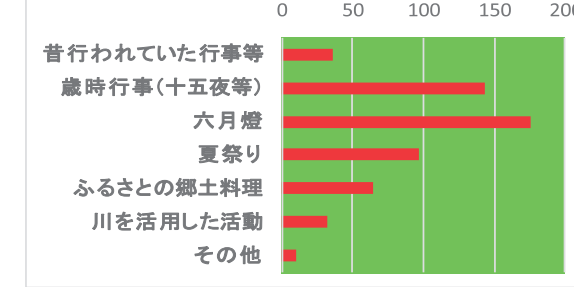


【歴史・史跡の保存について】

問49 山下校区の歴史や文化を知っているか

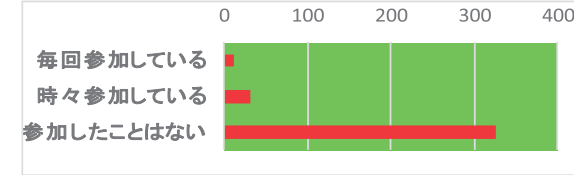


問50 継続・復活してほしい伝統行事

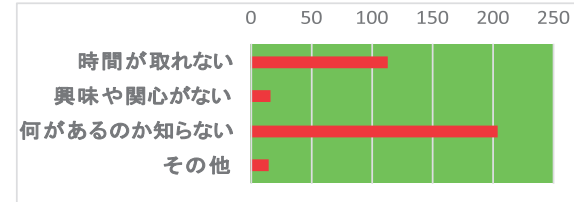


【社会教育について】

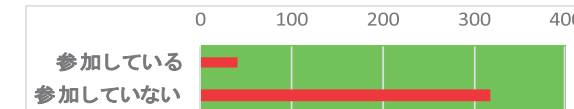
問51 社会人学級に参加しているか



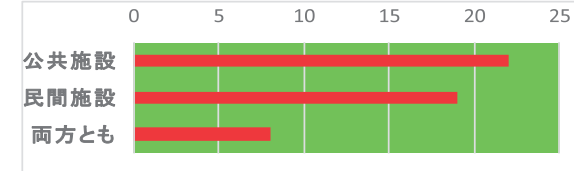
問52 社会学級に参加したことのない方の理由



問53 趣味や学習サークルに参加しているか



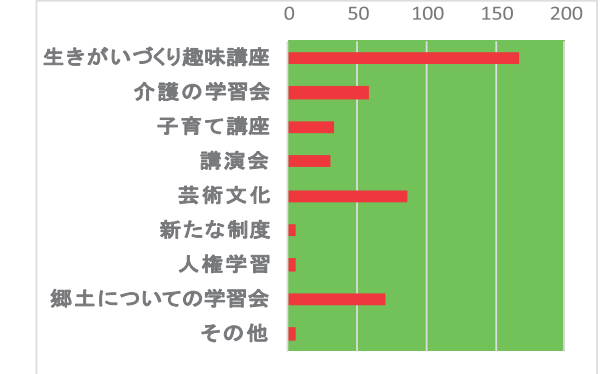
問53(1) 趣味や学習サークルの場所



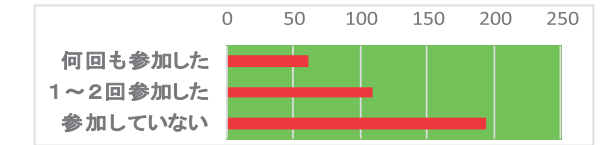
問53(2) 趣味や学習サークルに参加しない理由



問54 開設してほしい講座や学習会・講演会



問55 過去一年間にボランティアに参加したことがあるか

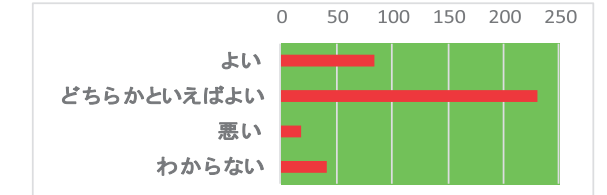


問56 校区文化祭に参加したことがあるか

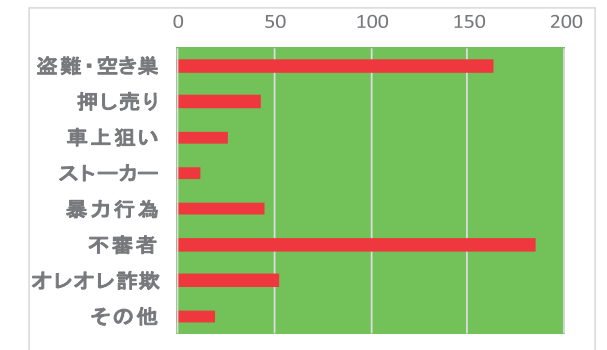


【安心安全について】

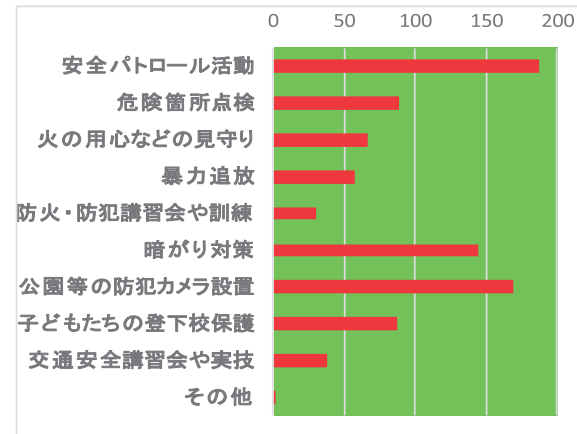
問58 校区の治安についてどう思うか



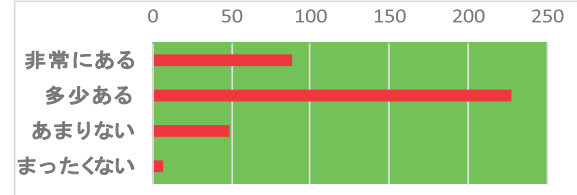
問59 日常生活で不安に思うことは何か



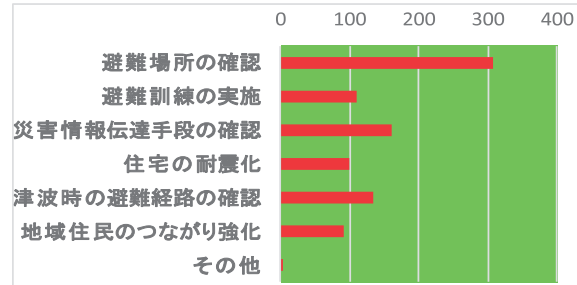
問60 取り組んでほしい安心安全活動は何か



問61① 地震やその他の災害に不安を感じるか



問61② 災害から命を守るために必要なことは何か



アンケート実施の状況

1 アンケート実施のスケジュール

(アンケート配付)
平成29年8月20日

(アンケート回収)
平成29年9月14日まで

(アンケート集計・分析)
平成29年9月26日～28日
平成29年10月3日～19日
(計12日間延べ35人で)

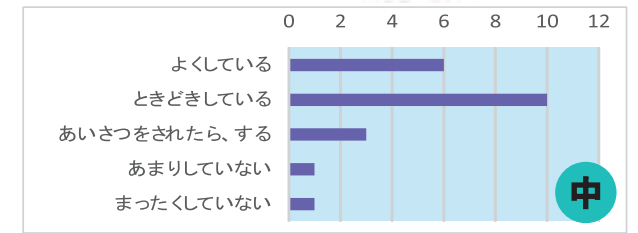
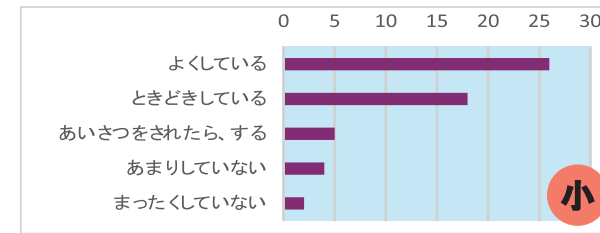
2 アンケート配付・回収状況

	配付数	回収数	回収率
地域	500部	435部	87%
山下小 5年生	55部	55部	100%
甲東中 2年生	21部	21部	100%

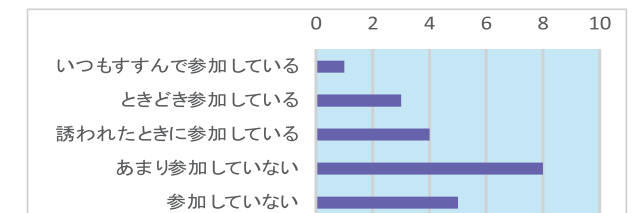
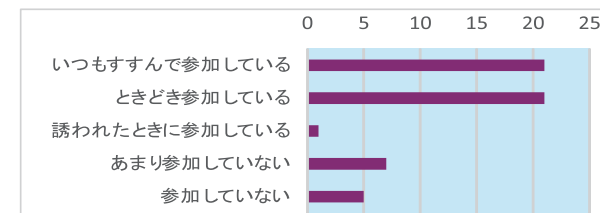
小・中学生アンケート（対象者 山下小5年 55人 甲東中2年 21人）



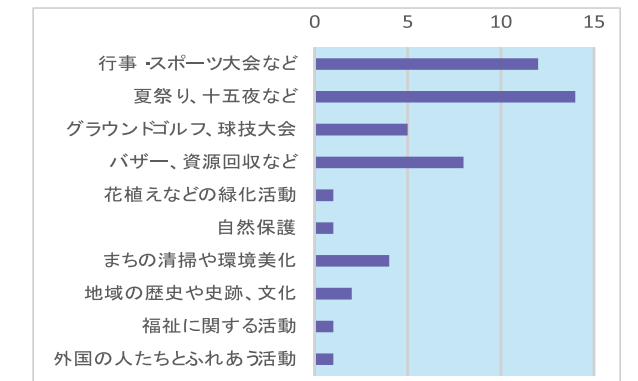
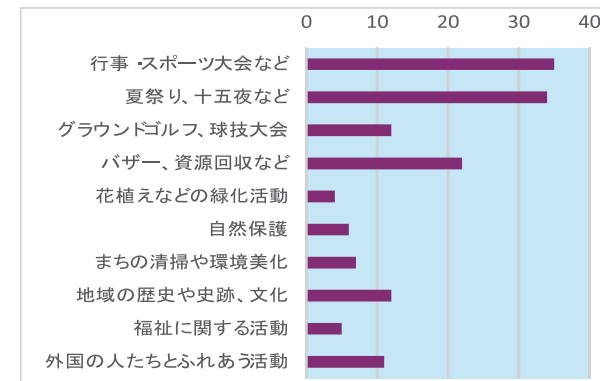
問1 近所の人とあいさつをしていますか。（単位：人）



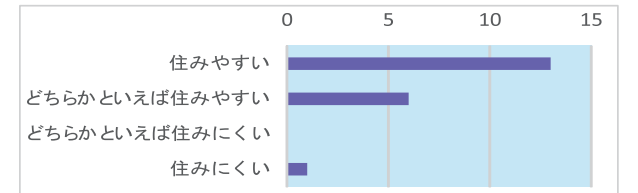
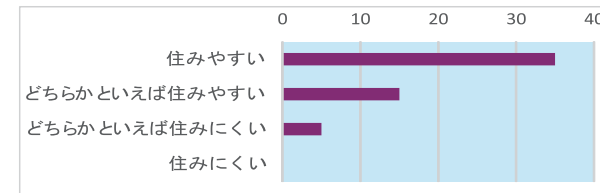
問2 あいご会活動や校区内の行事などに参加していますか。



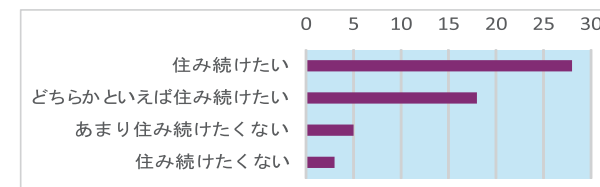
問3 今後どのような活動に参加・協力をしてみたいですか。（3つまで）



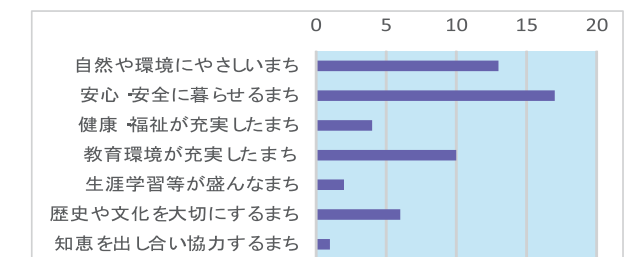
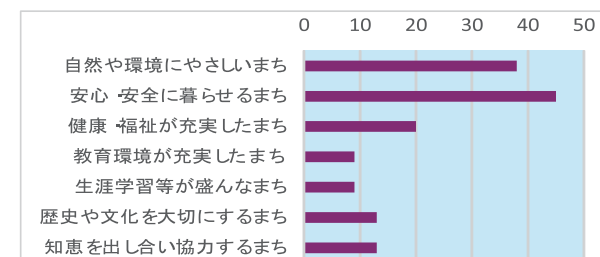
問4 山下校区は住みやすいと思いますか。



問5 これからも山下校区に住み続けたいと思いますか。

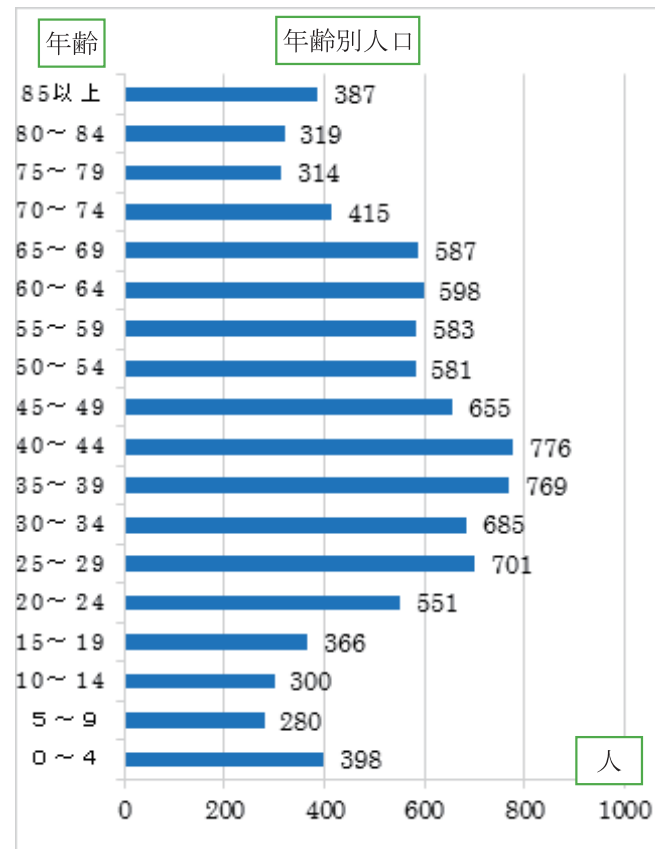


問6 山下校区がどのような「まち」になってほしいですか。（3つまで）



4 統計資料

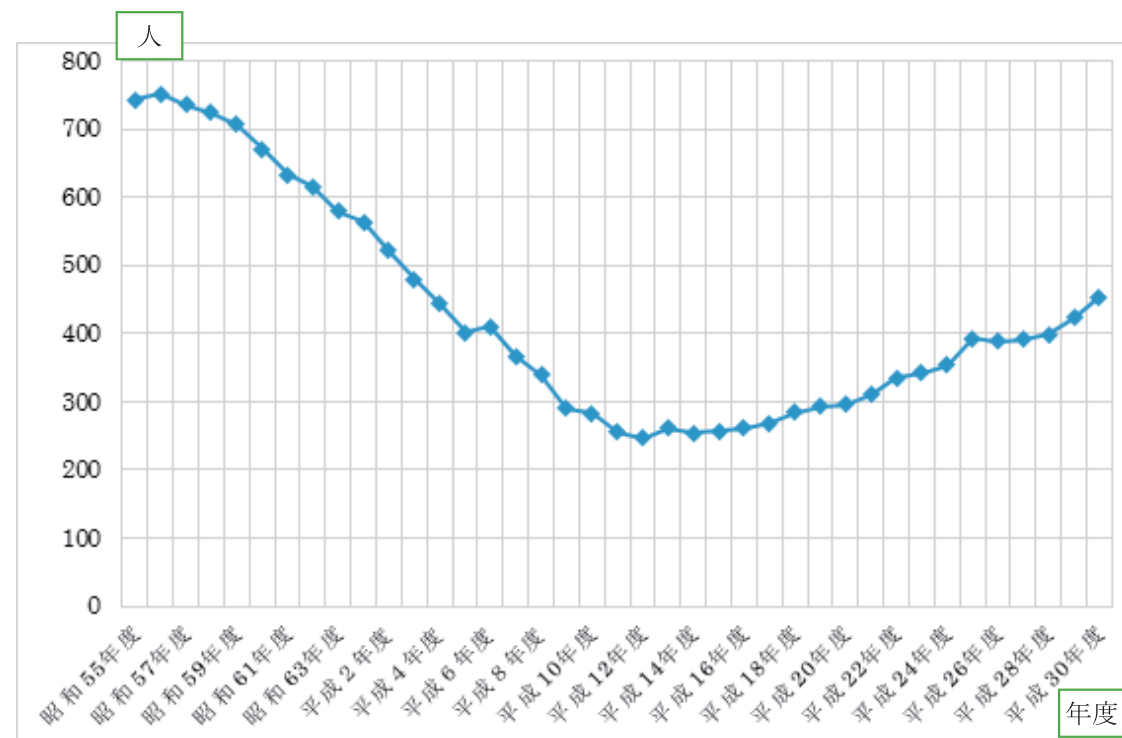
山下小学校区の人口・世帯数（平成27年国勢調査結果）



人口	9,952人
男	4,285人
女	5,667人
世帯数	5,986世帯

※ 年齢不詳は含まず

山下小学校児童数の推移

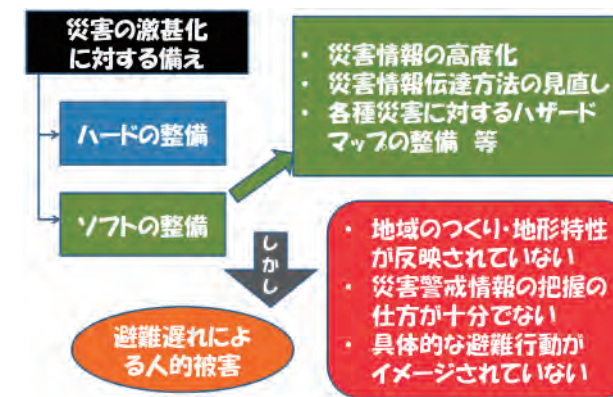


5 防災マップづくりとその活用・今後の展開

山下校区コミュニティプラン（安全安心部会）「災害に強いまちづくり・防災研修会」報告

1. 取り組みの背景と取り組みの主旨

近年、地球温暖化の影響もあり、災害が激甚化している。これに対して、ハードの整備（防災諸施設の整備）やソフトの整備（気象・災害情報の高度化、各種ハザードマップの整備など）が進められている。しかしながら、発災時において避難遅れによる人的被害が多く発生している。その原因として、行政機関から提供されるハザードマップだけでは住んでいる地区の特性が十分反映されていない、具体的な避難行動（避難所・避難路）がイメージされないなどの課題が考えられる。



山下校区コミュニティ協議会（以下、協議会と略す）では、これまで安全安心マップを作成しているが、上記の課題に対し、日常の地域と異なって災害発生時の目線で防災マップ作りを行うこととし、(株)新日本技術コンサルタントの協力を得てDIG（Disaster Imagination Game、災害図上



訓練)の手法^{1),2)}によって3回のワークショップを行った。山下校区内の7町内会を山の手グループと川下グループに分けて取り組むこととした。



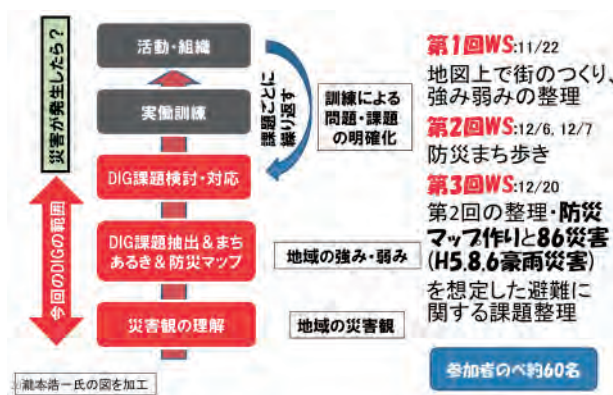
協議会からの参加者は下表のとおりであった。

グループ名	参加者氏名	地区名	第一回 11.22	第二回 山の手12.6 川下12.7	第三回 12.20
川下	西村 光行	加治屋町	○	○	○
	西村 雄子	加治屋町	○	○	○
	重田 安廣	加治屋町	○	○	○
	本慶 武明	加治屋町	○	○	○
	本房 貴子	千日町	○		
	本房 博臣	千日町		○	○
	前田 正幸	山之口町	○	○	○
山の手	緒方 善子	東千石町	○	○	○
	江野 政義	東千石町	○		
	関 直三郎	東千石町	○	○	○
	妹尾 博隆	西千石町	○	○	○
	吉永 次男	照国町	○		
	東 和男	平之町	○	○	○
	山形 ハツ子	平之町	○	○	○
富山 開正	西千石町	○	○	○	

今回対象とした災害は参加者の記憶に残る昭和61年7月10日豪雨による平之町地区の土砂災害（鹿児島県死者18人）および平成5年8月6日の豪雨洪水浸水災害（鹿児島県死者121人、内鹿児島市内49人。以下、86災害と略す³⁾）を対象とし、災害の影響を改めて想定し、今後の地域における防災・減災活動への課題を検討することとした。

2. ワークショップの進め方

次図は取り組んだDIGのフローである。すなわち、第1ステップで最近の災害や当該地域の過去の災害を振り返り地域の災害観を再認識する。第2ステップで校区の地図上に地域のつくりや特徴を書き込み、さらに、地域のハザードマップと対比しながら災害時の課題を整理する。第3ステップとして防災視点で地域のまち歩きを行い、日常とは異なり災害発生時の被害状況を想定し、写真撮影や気づきを記録する。これらを第4ステップとして地図上に貼付し、防災マップを作成する。また、発災時の避難行動につなげるための課題について意見交換する。



3. 室内ワークショップ（第1回）

写真は第1回ワークショップの状況である。



Step-1: 地図に地域のつくりを色で塗りましょう!
Step-2: 地域の資源(人、物など防災資源)



Step-3: 災害外力(ハザードマップ)および危険箇所確認
Step-4: 発災時の課題について意見を出し合おう

地図上に地域のつくりを書き込み、過去の災害時を振り返ることによって、当時の状況や課題など多くの意見が交換され、以下の課題がまとめられた。

DIG作業により抽出された課題

- ①中心市街地・繁華街であり高層ビルが多いが、避難場所としては事前に相談が必要。
- ②昼間より夜間人口が多い繁華街では情報の伝達が難しい。特に地下への連絡方法。
- ③ビルの高層居住者の防災意識向上や高齢者の避難手助けの日常的訓練。
- ④自主防災組織の組織力向上。
- ⑤防犯防火等の地域活動と防災訓練との連携。

4. 防災まち歩きワークショップ(第2回)

室内におけるDIGに引き続いて、日常とは異なる防災視点でまち歩きを実施した。まち歩きは山の手と川下の2つのエリアを2日に分け、各エリアをさらに東西A・B班に分けた。

参加者の記憶とともにハザードマップや86災害の記録を参考にし、平地部では浸水深や浸水端部の位置、山地部では斜面や山裾部においては昭和61年土砂災害跡や土砂崩壊到達端部をポール・

第2回WS/防災まちあるきの視点で日頃見慣れた地域を災害視点で観察

- ①山の手・川下各2班に分かれる
 - ②災害視点
 - ・86災害の浸水の記憶をもとに浸水深さをポールで示し写真を撮る。
 - ・A地区では湧水箇所の確認とそこから水路(暗渠)がどのように通っているか確認する。
 - ・B地区ではどこまで浸水したか、境界を確認する。
- また、昭和61年の土砂災害箇所を確認する。
・防災視点(地震時も含めて)で地域の問題点・避難時の問題点など意見を出し合う。



昭和61年土砂災害・平之町（鹿児島県砂防課資料）

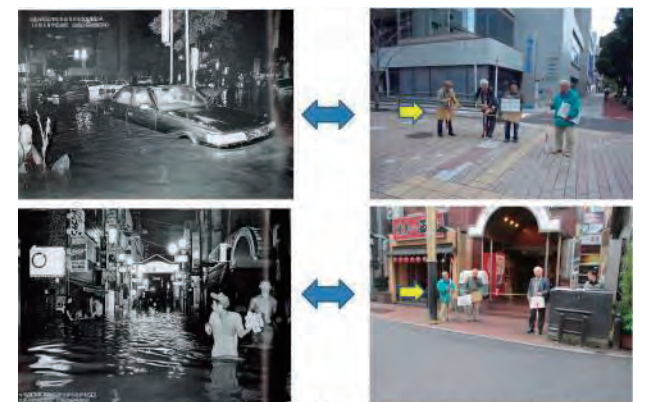
第2回WS防災まちあるき 山の手G:12月6日



第2回WS防災まちあるき 川下G:12月7日



86災害の浸水の記憶を再現



南日本新聞社(1993.10):報道写真集'93夏 鹿児島風水害と現地の対比

巻き尺や勾配(スラント)計を用いて現地を計測することとした。また、地盤高は地理院地図を参照にした。



86災害の浸水の記憶を再現



防災まち歩きでは日常と異なる視点で豪雨時の土砂災害や浸水災害を想定することで、改めて自らの地域を再確認できた。

防災まち歩き後、室内で気づきを整理した。特に1mを超す浸水深や、日常では気づかない微妙な標高差による浸水被害の有無、暗渠構造の河川によるバックウォーターの懸念等である。

山の手グループまち歩き後の整理



川下グループまち歩き後の整理



5. 防災マップ作成と避難時の課題整理ワークショップ（第3回）

第3回ワークショップでは校区の地図上に撮影した写真を貼付し、防災マップを試作するとともに改めて発災時の課題を議論した。

第3回WS: 防災まち歩き結果をマップにまとめた
【山の手グループ・照国町・東千石町】



86災害・洪水発生状況のデータ



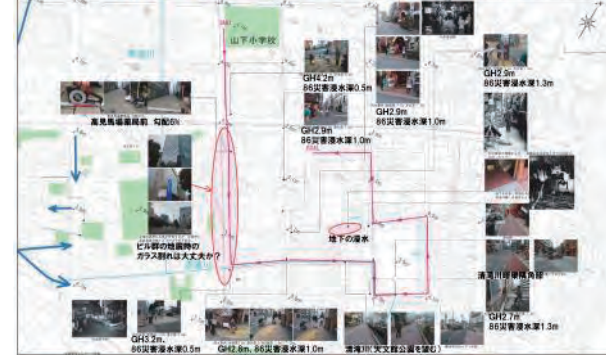
【山の手グループ・平之町・西千石町】



【川下グループ・加治屋町】



【川下グループ・山之口町千日町】



【発災時における避難の課題】

86 災害後甲突川の河積断面を増やす河川改修や道路など雨水排水を効果的に排出するための対策工事が実施されている。しかしながら、最近の災害は過去に経験したことの無いレベルの豪雨災害が各所で発生していることから、86 災害レベルの浸水被害が生じたことを想定し、その時系列と避難行動について検討した。

86 災害では7月末から8月1日までの災害を伴う長雨で斜面の不安定や河川の増水がある中で8月6日17時から19時の2時間に109mmの雨量を記録し、河川はん濫・がけ崩れ・土石流が発生している⁴⁾。そのような短時間の降雨状況の変化の下で逃げ遅れとならない避難行動ができるかが議論され再認識され、課題がまとめられた。



WSによる避難の基本のまとめ



- ①避難場所となる山下小学校の86災害時の浸水深は約20cmまた中央高校では60cmが記録されており、浸水前の避難が重要である。
- ②86災害と同程度の浸水被害が生じるとした場合、マンションなどビルが多い地域であり建物内に留まることで被害を避けるが、児童や生徒の登下校時や通勤等の時間帯に影響を及ぼさない対応が必要である。
- ③平成5年当時に比べ気象情報の予報精度や伝達手法は向上していることを踏まえて避難遅れを生じない、いち早い避難行動が重要である。
- ④地域の情報伝達により、自分たちは大丈夫という「正常性バイアス」が動かない共助の仕組みづくりが重要である。

6. 今後について

ハザードマップを防災マップと呼ぶことがある。しかし、前者は災害外力や避難所は示しているのみであり、潜んでいる災害の危険要因を確認し、適切な避難路等を加味した地域自らの目線で作る防災マップ作りが重要であるとし今回鹿兒島中心市街地で取り組んだ。

参加者においては今回の DIG 手法による防災対応の高い関心や理解が得られたが、今後児童や地域への普及、他の災害（地震等）に関する防災マップ作りなど積極的意見をいただいた。

地震時の津波避難ビルが指定されているが、緊急時の避難ビルや建物の利用の可能性についても検討課題とした。また、地震時においてもビルのガラスは対策が取られているものの万が一割れた場合など安全な避難についても意見が交わされた。

一方、避難遅れへの対応として災害時の危険度をよりリアルに表現するために防災マップを3D化する方法を試行的に取り組んだが今後の課題とした。

ハザードマップの2D⇒3D表示
地域住民に災害をよりリアルに実感してもらう



浸水ハザードマップの影響範囲の表示



3Dマップ上に86災害浸水状況を表示



参考文献

- 1) 瀧本浩一；地域防災とまちづくりーみんなをその気にさせる災害図上訓練ーCOPA BOOKS 自治体議会政策学会叢書、イマジン出版.
- 2) 福田直三・森脇武夫・山根一夫ほか（2018）；地域住民と学生による防災マップ作成の取り組み－呉市広長浜地区の事例－土木学会中国支部第70回研究発表会（平成30年度）、IV - 18、pp.405－406.
- 3) 南日本新聞社（1993.10）；報道写真集'93 夏 鹿児島風水害.
- 4) 松嶋憲昭（1993.12）；'93.8 鹿児島災害、道路、pp.59－65.

報告書とりまとめ責任者
株式会社新日本技術コンサルタント
技術顧問 福田直三